

## 神経精神科この1年

神経精神科医長 鎌 田 隼 輔

### 診 療 体 制

平成15年1月から3月までは、原田、山本、吉川、鎌田の4人で午前・午後の外来診療と病棟診療を行った。平成15年4月に原田研一医師が五稜会病院(札幌)に、吉川憲人医師が札幌太田病院にそれぞれ転出し、新たに旭川医科大学から阪本一剛医師(旭川医大22期)が着任した。また、旭川医科大学から毎週出張されていた白濱靖幸助手(旭川医大19期)に変わり、土田英文助手(旭川医大19期)に毎週金曜に来ていただくことになった。常勤医師が4名から3名になったため、原田医師と吉川医師には交代で水曜日に出張していただき外来診療を担当していただいた。

臨床心理士の豊島眞先生(札幌カウンセリングセンター)には、従来通り月2回心理検査とカウンセリングをしていただいた。

### 外 来

一般外来は、平成15年12月累計で、1日平均外来患者数は91人であり、前年の86人と比べてやや増加した。平成15年1月から12月までの新患者数は672人であり、平成14年1月から12月までの501人に比べて増加した(前年比34%増)。新患の診察は予約制で行っていないため、再診の患者さんの診察が優先され、診察までの待ち時間が非常に長くなっている。今後、新患の診察までの待ち時間を短縮するよう努力したい。

救急外来は当番制で行い、休日・時間外に来院した患者に対応している。平成15年1月から12月までに、のべ400人(救急外来受診者の3.8%)が、精神科救急外来を受診し、そのうち45人(休日・時間外に精神科を受診した患者の11%)が入院した。

### 病 棟

平成15年1月から12月までの新入院患者数は第1病棟(開放)、第2病棟(閉鎖)合わせて236人(前年比88%)であった。入院中の患者さんは高齢

化し、身体合併症も多くなり、他科の先生には大変お世話になっている。寝たきりの患者さんには何度も往診をしていただき感謝しています。この場を借りてお礼いたします。平成15年1月から12月の平均在院日数は206日(前年179日)であった。病棟看護スタッフ・原田PSWが中心となって精神科訪問看護を行い、カンファレンスを定期的に関き成果を挙げている。

昨年から引き続いて第1病棟には佐藤薬剤師、第2病棟には藤沢薬剤師に入っており、ベッドサイドで薬剤指導業務をしていただいている。患者さんからもスタッフからも好評であり、今では病棟にかかせない存在となっている。

### 精神科サテライト・クリニック事業

平成15年3月まで精神科サテライト・クリニックを月3回開設したが、平成15年4月以降は常勤医が減少したため、鎌田と山本がそれぞれ月1回担当した。

### 地域精神保健活動

名寄地域における精神保健活動の連携を強化するため、病院内で継続していた看護連絡会を発展的に解消し、新たに「精神保健ネットワーク定例会」を立ち上げた。病院、保健所、地域生活支援センター、緑が丘寮、緑が丘授産所、家族会、名寄市、市立名寄短期大学などの関係者から構成され、当地域が精神障害者にとって住みやすい地域になるよう意見交換や事例検討を行っている。

### 最 後 に

名寄市立総合病院は、上川北部のみならず北・北海道の精神医療の中心として今後もさらに役割は増していくものと考えられる。スタッフ一丸となってよりよい精神医療の充実を目指したい。そのためにも精神科医のみならず、作業療法士、精神保健福祉士、臨床心理士の増員が望まれる。